

共有テーマの研究・討議・学習に専念

JPC 70th

クロニクル

第9回

chronicle

セミナー開催

■外国人講師によるセミナー

大阪、福岡の4会場でそれぞれ3日間開催。

海外視察団の派遣とともに1955年から、外国人講師を招き

セミナーは4部門（経営管理・市場部門・労務部門・製造部門）に分けて、参加者の質問事項をコーディネーターが整理、講師が答える方式がとられた。

トップマネジメント・セミナーが開催された。皮切りは同年6月に来日した5人の講師

団で、東京、名古屋、対象は各界のトップ



長野・軽井沢で開催された「第1回軽井沢トップ・マネジメント・セミナー」（1958年8月11日、軽井沢・晴山ホテル）。

■セミナー形式は「想像外」

外国人講師によるセミナーに続き、日本生産性本部は

58年8月11日から16日

までの6日間、日本人講師によるトップマネジメント対象のセミナーを長野・軽井沢で開催。第1回軽井沢トップ・マネジメント・セ

「経営管理」（芝浦製作所専務・西野嘉一郎）、「インダストリアル・リレーションズ」（日本光学工業専務・乗富丈夫）、「インダストリアル・エンジニアリング」（日本建鉄社長・加藤威夫）、「日本経済の現状を分析し

「わが国における国家財政の諸問題」（一橋大学学長・井藤半弥）

第1回の状況を「軽井沢トップ・セミナーのあゆみ」（75年7月）は次のように伝える。

「当時としてはセミナー形式は、わが国ではほとんど知られていない教育方式であった。ことに経営の最高層にある人たちが、一週間近くも社務を離れて、一ヶ所で寝食を共にし、共有のテーマの研究・討議・学習に専念するなどということは想像外のことであった。」

その後、セミナーは「軽井沢セミナー」の名で定着。第68回を迎える今年のセミナーは7月9、10日に開催予定だ。（文中・敬称略）

【参考文献】『生産性運動50年史』（社会経済生産性本部、2005年）

ある人たちが、一週間近くも社務を離れて、一ヶ所で寝食を共にし、共有のテーマの研究・討議・学習に専念するなどということは想像外のことであった。」

その後、セミナーは「軽井沢セミナー」の名で定着。第68回を迎える今年のセミナーは7月9、10日に開催予定だ。（文中・敬称略）

【参考文献】『生産性運動50年史』（社会経済生産性本部、2005年）

ある人たちが、一週間近くも社務を離れて、一ヶ所で寝食を共にし、共有のテーマの研究・討議・学習に専念するなどということは想像外のことであった。」

その後、セミナーは「軽井沢セミナー」の名で定着。第68回を迎える今年のセミナーは7月9、10日に開催予定だ。（文中・敬称略）